

領域	重 標 点 目	具体的な取組	R5 教職員 (53)	R5 生徒 (331)	R5 保護者 (412)	R6 教員 (58)	R6 生徒 (744)	R6 保護者 (283)	担 当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議委員による指導助言
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 学校ホームページを適切に更新し、必要な情報を提供する	3.30	2.83	3.02	2.97	2.85	3.07	教務情報	ホームページの主な訪問者を、「保護者」「中学生」「地域住民」として、北高ダイアリーを通して、学校の様子を積極的に伝えてきている。また、スクールポリシーやカリキュラム、各科の特徴など、現在本校が目指している教育をわかりやすく伝えるページを更新している。今後も、さらにホームページの充実を図る方策を継続して検討していく予定である。	・「地域・家庭・関係機関との連携」に関して、「5学校・学年・学級の取組について適切に情報提供し、保護者との連携を深める」(教員3.19>保護者2.86)、「6 学校評議員会や様々な学校行事を通して、地域との連携を深める(教員3.26>保護者2.96)」という評価結果となっている。いずれも、教員より保護者の評価が低い状況にあることから、保護者や地域との連携を深める活動とその情報発信にも意識的に取り組んでいただきたい。
		2 地域の中学生・保護者の期待に応え、学校説明会を充実したものにす	3.36	/	/	3.26	/	/	総務	今年度3回の学校説明会を実施したが、受験生の志望増加にはつながっていない。来年度は、生徒の活躍を中心に文化フェスティバルもオープン・ハイスクールに位置づけ、「行きたい学校」と認識してもらえるよう努めていきたい。	・宝塚北高校の良さをもっとアピールしてほしい。
	危機管理体制の確立	3 防災、交通安全その他の安全教育をとおして、職員・生徒の危機管理に対する意識の向上を図る	2.72	2.89	/	2.83	2.89	/	総務	「危機管理マニュアル」は、防災に特化したものであり、交通安全その他の安全教育は別に規定されていた。来年度はこれらの要素を踏まえた新しい「危機管理マニュアル」をつくっていく。	・防災対策について、地域として協力できることがあればさせていただく。 ・「6」学校評議員会や様々な学校行事をとおして、地域との連携を深めている。
		4 職員間及び関係機関との連携をとおして、いじめの防止・早期対応を組織的に行う	3.23	/	/	3.21	/	/	生徒指導	年間3回の「いじめアンケート」及び個別面談等の活用により、比較的早期発見、対応ができています。また、挨拶や返事を積極的に行うことにより、生徒の僅かな変化に対応できています。	・保護者の回答数が減少しているため、調査方法を改善すべき。 ・学校の情報を発信するのに、生徒会役員等による生徒からの発信は効果的である。
	地域・家庭・関係機関との連携	5 学校・学年・学級の取組について適切に情報提供し、保護者との連携を深める	3.28	/	2.89	3.19	/	2.86	学年	(1年) 学年通信、学年保護者会、三者面談によって、定期的に情報を発信し、保護者との連携を図ってきた。電話やママメルメを通して、家庭連絡を密に行った。 (2年) 三者面談、保護者会、学年通信の発行をはじめ、細目に電話連絡や面談を行うことにより保護者と情報を共有し、相互理解に努めた。 (3年) 学年通信やママメルメを使いながら、担任と保護者の連絡を密にすることができた。	
		6 学校評議員会や様々な学校行事を通して、地域との連携を深める	3.28	/	2.91	3.26	/	2.96	教頭	生徒会による地域イベントのスタッフ参加、演劇科生徒等による多くの地域イベントへの出演、地域の方との合同での地域清掃など、地域との連携を深めることができた。	
学力向上と進路実現	職員の授業力・資質の向上	7 ICT教育の推進等にも対応し、様々な工夫を重ね、授業改善に努める	3.09	3.02	/	3.17	3.17	/	教務情報	生徒も教員もタブレットを積極的に利用し、時代に合わせた教育活動の構築のために日々工夫を重ねている。その環境整備のために、ハード、ソフトの両面で、多くの支援を行ってきた。ロイロノート、やTeamsの利用は、ごく普通のことになっており、家庭学習のあり方も変わってきている。	・「総合的な探究の時間の充実」に関して、「12『リス探』等」をとおして、自らの興味・関心に応じてテーマを設定し、探究活動の手法、考え方、知識等を身につけさせる」という教員の評価結果の向上(3.17→3.38)が確認できる。全国的に「総合的な探究の時間」の充実が重要な課題となっている中、本校の先進的な取組が大学入試(特に学校推薦型選抜および総合型選抜)の実績に結び付いているという教員間の共通認識が影響していると考えられる。
		8 新学習指導要領や大学入試制度の改変に対応しつつ、教科指導力の向上を図る	3.13	/	/	3.10	/	/	教務情報	「理数探究基礎」「総合的な探究の時間」「情報Ⅱ」を設定し、新しい学習指導要領の目標に沿った学習活動が行える環境を整える工夫を行ってきた。研究授業や、授業見学等を通して、各教科でも、生徒の学習に役立つ評価のあり方を工夫している。	・「7」ICT教育の推進等に対して、工夫を重ねて授業改善に努められている。 ・「12」『リス探』等」をとおして、自らの興味・関心に応じてテーマを設定し、探究活動の手法、考え方を身につけさせている。
	すべての生徒の学力向上	9 計画的に授業・補習・小テストなどを実施し、生徒の学力を向上させる	3.34	3.07	3.03	3.21	3.12	2.77	学年	(1年) 毎週の小テストで基礎学力の定着を図った。生徒の理解度に応じて授業や補習を実施したことで、2年生以降への学習の基盤づくりができた。 (2年) 基礎学力の定着のため、計画的な小テストの実施、補習・補充の実施を行えた。 (3年) 小テスト・補習の実施により学力向上に努めた。	・昨年11月の学校評議員会の際、「リス探」の中間発表会を見学する機会をいただきまして、生徒達が自身の興味のあるテーマについて、色々調べて出した探究結果をみんなの前で発表したり発表されていました。テーマは地震での発電やインターネットとの共存やコンビニスイーツから見る「期間限定」が及ぼす影響など様々で、大人でも興味深いテーマばかりでした。GS科だけではなく、普通科の生徒達も参加できて、生徒全員が論理的に物事を分析して課題を解決する能力を磨けるいい勉強のチャンスだと思います。
		10 生徒の学力向上に向け、量・質のバランスに配慮した課題を課す	3.06	2.68	2.95	3.05	2.64	2.86	学年	(1年) 教科間の連携を図り、質量ともにバランスを見ながら、生徒の学力に応じた課題を課すことができた。 (2年) 教科間の連携を密にすることにより、生徒それぞれにとってより効果的な質・量の課題を課すことができた。 (3年) 量・質のバランスに配慮した課題を課すことにより、学力向上に努めた。	ぜひ、この取組を続けていただき、保護者も見学できるチャンスを作っていただければ喜ぶと思います。
	すべての生徒の学力向上	11 課題の提出状況、生活実態調査等を通じて家庭学習の状況を把握し、指導に生かす	2.92	/	/	3.05	/	/	学年	(1年) 教科間で情報を密に確認し合い、生徒への声掛けや指導に生かすとともに、家庭との連携も密に行った。 (2年) 生徒が自主的に学習活動に取り組めるように、その定着をはかりつつ、自己を見直すきっかけとできるよう活用した。 (3年) 課題の提出により家庭学習の習慣の確立を図った。	・リス探発表会は、多くの生徒が論理的に発表しており、良いものであったと思う。是非継続してほしいし、保護者が参観できるようになればなお良いと思う。 ・宝塚北高校の教育は主体性を重んじているように感じる
		12 「リス探」等をとおして、自らの興味・関心に応じてテーマを設定し、探究活動の手法、考え方、知識等を身につけさせる	3.17	2.99	/	3.38	2.95	/	SSH	生徒および教員からも本項目の肯定的な回答は高い。また、探究活動も企業や自治体との連携や外部コンクールへの参加など、幅広く質の高い活動になってきており、「リス探」における探究活動は一定の成果をあげていると考えている。ただ、探究活動に十分な期間がとれていないことや、有効な事前学習が行えていない部分があり、来年度以降は、より効果的な教材に改変していきたいと考えている。	・学力向上について、生徒、保護者との認識のズレがないか、推薦入試が増えたい傾向を共有できているかについて、今後も検証していく必要がある。
	総合的な探究の時間の充実	13 協働性を高め、伝え、発表する力・プレゼンテーション能力の育成を図る	3.15	3.14	/	3.19	3.13	/	SSH	2年次の「リス探」では、グループでの共同研究を行うことにより、協働性の向上を図っている。また、年間に4回の発表を行うことにより、伝える力も向上していることが考えられる。3年次の総合的な探究の時間では、今年度の後半よりグループディスカッションを取り入れ、協働的に問題解決を行い、論理的な表現やコミュニケーションの取り方について学ぶことで、協働性・伝える力を育成している。来年度からは、新たにプロジェクトマネジメントの手法を取り入れ、集団で協働的に課題を解決する手法を実践的に学ぶことで、これらの力の更なる向上が見込まれると予想している。	
		14 生徒個々が将来の姿を考え、自己実現をめざす進路指導を実践する	3.15	/	/	3.14	/	/	進路指導	進路ガイダンスや大学の模擬授業などは、予定通り実施できた。進路関係の行事だけでなく、日常生活や様々な活動を通して、高校卒業後の進路だけでなく、その後の人生設計についても考えらるよう促していきたい。	
	進路指導の充実	15 面談や様々な進路に関する働きかけを通して、早期から進路に対する生徒の意識を向上させる	3.32	3.12	3.17	3.21	3.19	3.09	進路指導	担任による個人面談や、学年全体での講演会などはできたが、学級単位での進路に関するホームルームの時間が十分にとれていないのが現状である。また今後、SSHとの連携も必須である。	

領域	重 標 点 目	具体的な取組	R5 教職員 (53)	R5 生徒 (331)	R5 保護者 (412)	R6 教員 (58)	R6 生徒 (744)	R6 保護者 (283)	担 当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて (各部、各科、各委員会)より	学校評議委員による指導助言
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	16 【演劇科】「朝読」や特別講義などを通して、読解力や思考力を向上させる	3.04	3.05	3.28	3.02	2.89	3.07	演劇科	「朝読」の実施により主体的な読書習慣の定着を図った。特別講義や校外学習等の感想文への取り組みに対する生徒の意識の低下が感じられる。自ら考えることや、考えたことをきちんと言語化する機会として、目的等を明確にし、さらに有効に活用したい。	・演劇科とGS科における特色ある教育活動は、学校全体の活性化にも貢献していることがうかがえる。普通科の特色化も図りながら、3学科の切磋琢磨による魅力的な校風づくりのより一層の推進を期待したい。
		17 【演劇科】 専門科目などを通して、表現力・コミュニケーション能力を育成する	3.42	3.57	3.60	3.34	3.51	3.50		・「17」専門科目などをとおして、表現力、コミュニケーション能力を育成している。 ・「19」シアトル研修や英語を活用した取組をとおして、グローバルな視点を持たせ、世界を意識させている。	
		18 【演劇科】 特色ある学びを通して、芸術への愛情を深め、調和のとれた人格の育成を図る	3.30	3.57	3.43	3.22	3.50	3.54		・演劇科の朝読について、何のためにやっているか、趣旨が伝わるように保護者にも説明するよ。	
創造的な校風の樹立	GS科の充実	19 【GS科】シアトル研修や英語を活用した取組を通して、グローバルな視点を持たせ、世界を意識させる	3.40	3.59	3.68	3.47	3.50	3.70	GS科	シアトル研修において、ワシントン大学やマイクロソフト社では大学教員や社員に対して英語での科学セッションを実施した。事後アンケートではシアトル研修全体に対して「満足」100%、「自分の将来に影響を与えるものであった」100%、影響を与えた内容について「国際的な内容に関わるもの」60%、「ポジティブ志向に関わるもの」27%で世界を意識させるに有効な研修となった。	・普通科の特色をもっと明確にする必要がある。
		20 【GS科】専門的な理数科目の授業や科目横断型授業を通して、自らの将来像を深く考えさせる	3.43	3.72	3.54	3.45	3.39	3.46		学校評価アンケートによると、教員、保護者の評価に対して、生徒の評価が低くなっている。学校設定科目GSⅠ、Ⅱ、Ⅲの授業の生徒の負担軽減の為に改編したプログラムスケジュールでは、十分に振り返りの時間が取れていないと感じている。更なる見直しを計り、振り返りを実施し、将来像を考える時間を確保したい。	
		21 【GS科】高大連携授業や課題研究等の取組を通して、思考力・判断力・表現力を育成し、学ぶ意欲を高める	3.51	3.61	3.76	3.53	3.50	3.62		コンクール、コンテスト等での全国レベルでの複数入賞など、突出した科学人材の育成につながる成果が広く出ていると判断しているが、それに対応できない生徒の成長の実感が相対的に低下しているのではないかと考えている。振り返りを行いながら成長を確認する機会をつくってきたい。	
	ふるさと貢献活動事業の充実	22 特別支援学校との交流、地域イベントなどをとおして交流し、思いやりの心を育む	3.09	2.81	2.94	3.10	2.84	2.92	教頭 演劇科	宝塚養護学校、地域施設の訪問、様々な地域イベントへの出演、地域コミュニティ事業の生徒によるスタッフ参加等をおして、地域との交流を深めることができるとともに、思いやりの心を育むことができた	
	国際交流事業の充実	23 国際交流などの国際理解教育が充実しており、グローバルな視点を持たせ、世界を意識させることにつながっている	3.02	2.66	2.59	3.10	2.80	2.64	国際理解教育	姉妹校の都合により今年度の交流再開が中止となったため、シドニーでの語学研修を実施した。応募者多数のため選考をして参加者を決定し、5月から10月にわたって事前・事後研修も行った。参加者の評価は極めて高く、来年度も実施する予定である。また昨年同様、グローバルサイエンス科対象のシアトル研修を実施し、3月にはJICA訪問も予定している。	
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	24 登下校のマナー、挨拶や身だしなみの指導を通して、「高校生にふさわしいマナー」を身につけさせる	2.91	3.18	3.24	2.84	3.14	3.21	教頭	高校生としての常識、マナーを自らわきまえ、生活していくよう、行事や日常生活から考えさせていきたい。	・生徒指導や人権教育等を通じて目指すべき「豊かな人間性」の具体は何か、どのようにして生徒たちに身に付けさせるか、教職員間の共通理解を図ることが重要であり、学校の教育活動全体を通じた取組の進展を期待したい。
	人権教育の推進	25 人権HRやその他様々な機会において、人権意識の向上を図る	2.77	2.81	2.87	2.93	2.91	2.87	人権推進	今年度も8月にカウンセリングマインド研修会を行った。今年は講師による講演ではなく、様々な対応の仕方が考えられる実際の具体的な指導事例を取り上げ、それぞれどのように対応するのかを各人が考え発表するという実践的な取り組みを行った。また各学年、年1回の人権HRを設定し、それぞれの学年に応じ1・2学期に実施した。	・「24」登下校のマナー、挨拶や身だしなみの指導をとおして、「高校生にふさわしいマナー」を身につけさせている。 ・「25」人権ホームルームやその他様々な機会において、人権意識の向上を図っている。
	図書館利用の推進	26 図書だよりの配布をはじめ様々な取組により、読書活動への興味関心を高める	3.68	2.49	2.63	3.60	2.59	2.40	総務	多くの生徒が保護者に図書だよりを渡していないようなので、図書委員がおたよりを配布する際に一言お願いをする。毎月張り替えている掲示物の写真を撮り、おたよりが出たタイミングで保護者に配信する。合わせて、おたよりが配布されたことを保護者に配信、その際今月は〇〇の特集をしています、〇〇賞の作品が入りましたなど、簡単な説明をつける。	・「26」図書だよりの配布により、心の育成を図っている。 ・「28」キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題に対応している。 ・バス停が混雑すると予想される日の掲示、宝塚北高校の生徒へのバスマナーに関する注意喚起の声も聞こえるが、バスマナーでは、地域の方に席を譲るなどの行動も見受けられる。問題ないと思う。
	保健・健康教育の推進	27 保健だよりの配布およびその他様々な機会において、生徒が自分自身を大切にすることを図る	3.30	/	2.78	3.41	/	2.68	保健	「保健だより」は定期的に発行し、健康管理、心の育成に力を入れてきた。生徒を通じて配布してきたものの、保護者には届いていないということが判明している。今後は、保護者に、「保健だより」の発行を知らせる配信を行う等、通知方法も検討していきたい。	・地域の盆踊り大会やフェスティバルに参加してくれてうれしく思う。
	生徒会活動の充実	28 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題に対して組織的に対応する	3.32	/	2.88	3.40	/	2.90	生徒指導	今年度も、生徒会役員に立候補する生徒が増加し、より活発になっている。生徒会から、学校の広報活動への参加や、情報の公開など、生徒が主体となって学校運営に携わる活動が活発化してきた。この流れを次年度に引き継いでいくことが重要と考える。	・豊かな人間性とは何かについて具体的に考えていくことも必要。
SSHによる特色ある学校づくり	SSHによる学校教育活動の活性化	30 SSH指定校として、特色ある教育活動を行う	3.26	3.05	3.15	3.38	3.11	3.16	SSH	SSHの事業の一環として他校生や教員対象に「リサーチプラン研修会」を行い、リサーチプランの立て方や重要性およびその指導法について普及をおこなった。また、全校生対象にSSH校対象のイベントやGS科の講義や校外学習の募集を呼びかけ、少人数ではあったが参加者があった。年度末に普通科とGS科で合同の発表会を行い、演劇科生徒も参観する「探究の日」を設定することができた。	・本校の特色づくりの中核的な取組として、より一層の充実・発展を期待するとともに、SSHを通じた教育活動の成果と関連情報の積極的な発信に努めていただきたい。
	31 SSHを、学校の教育活動に効果的に生かす	3.19	3.04	3.22	3.22	3.23	3.31	SSH事業で支援することにより、GS科では専門的な内容に踏み込んだ探究活動が、普通科では生徒の興味関心に応じた幅広い探究活動を行うことが出来ている。また、自然科学系の部活動の研究活動に対しても支援を行い、研究内容の質が向上してきている。(例:化学部の全国総合文化祭出場)今後は、HPの改変を行い、本校の取組を地域へ発信していきたい。		・「29」学校行事、委員会活動、地域活動その他において、生徒の主体的、協働的な態度を養っている。 ・「31」SSHを学校の教育活動に効果的に生かしている。	
	32 SSHプログラムを、数学や理科などに対する興味・関心や知的探究心の育成につなげる	3.32	2.95	3.10	3.31	3.04	3.14	SSHプログラムの中核をなす授業としてGS科のGSⅠ、GSⅡ、GSⅢおよび普通科の「リス探」において探究活動の充実を図り、生徒の知的探究心の育成を促進した。また、これらの授業や1学年における「探究の芽」において、大学や博物館から専門家を招聘し、数学や理科などに対する興味関心の育成を図った			
	33 SSHプログラムを、数学や理科などに対する興味・関心や知的探究心の育成につなげる	3.25	2.92	3.05	3.31	3.02	3.00	GS科の特色ある授業(「GSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」)や普通科のリス探で行っている探究活動で養われている力は、学力の土台の部分の育成の醸成には役立っていると感じているが、学力の定義や学力向上を測る指標が難しいため、今年度は改善の余地が残る結果となっている。今後は、探究活動の評価の方法や頻度を変えるなど、意識づけに力を入れていきたい。			
	34 宝塚北高校に入学してよかったと思う	/	3.18	3.48	/	3.26	3.43	全体	(全体評価)今年度も、生徒、保護者からの満足度は高いと考える。現在も生徒会を中心に魅力ある学校づくりが検討されている。我々教職員も現状を踏まえ、学びたいと思える学校づくりをしていきたい。	・学年別、学科別の詳細な分析を行い、その結果を教育活動の改善に有効活用していただきたい。 ・生徒も保護者も宝塚北高校に入学して良かったと思っている。 ・学校評価を、学年別や系統別に分析していくことも必要。	